

第7回 「群馬自然探索会 i n 館林」 報告

深澤恵子 (S56・化)

11月26日(日)に「群馬自然探索会 i n 館林」を実施しました。

今年はNHKの大河ドラマで徳川家康の生涯が取り上げられ、その若いころから常におそばで活躍する榊原康政公を追っていました。館林藩の城下町、お城のあった面影を残す地域を訪ねて、高崎のある西毛地域とは異なる景色を堪能しました。

集合は10時に尾曳駐車場、高崎からと他県からの方々9名で、まず隣の尾曳稲荷神社を参拝しました。ここは1532年に尾曳城(後の館林城)の鬼門にあたる稲荷郭の地に守護神として創始されました。連なる赤い鳥居の奥に由緒ある社殿が鎮座します。着いた時には僅かに小雨まじりでしたが、いつの間にか気にならなくなりました。



続いて近くにある旧上毛モスリン事務所へ。明治41年~43年に建てられたモダンな西洋風建築で、中には当時の馬車が飾ってあり、現在は館林市の資料館になっています。隣には田山花袋の旧居。上毛かるたでお馴染みの明治時代の文学作家です。「誇る文豪田山花袋」



日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋さんが名誉館長を務める「向井千秋記念子ども科学館」ここは向井さんの子供の頃の作品や宇宙関連の展示が多く、簡単な実験やムーンウォーク体験などもできます。そしてプラネタリウムで秋の星空探検をしました。私はプラネタリ



ウムが好きで高崎では年に3~4回行きます。向井さんもきっと子供の頃館林の夜空を眺めていたのでしょう。



群馬県は小麦栽培が盛んな地域ですが、江戸時代には館林藩特産の「饅頭粉」として将軍家へ献上されていました。この日の昼食は、そんな館林うどんの名家「うどん本丸」さんでいただきました。館林には大小の沼が多く点在していて、ナマズがたくさん採れるのでしょう。ナマズの天ぷらというのぼりを見かけますが、こちらでもナマズ天ぷらと一緒に、こしのある釜揚げうどんをいただきました。初めて食べるナマズはあっさりした白身の魚で、ふわふわで泥臭さは全くなくて、たいへん美味しくいただきました。



ゆっくりと昼食をとりおしゃべりをした後で、毎年話題になる多々良沼の白鳥を見に行きました。この日は時期的には少し早くて白鳥の数は十数羽だったようです。多々良沼のす

ぐ隣に位置する「がば沼」に餌やりの小屋があります。駐車場に車を止め、見ると奥の方に数羽の白鳥が飛来しており、優雅な姿を収めようと数人のカメラマンが望遠レンズをつけてねらっていました。なかなか近くに寄って来なくて寒くなったので引き上げました。

12月の半ばには毎日のように、館林や多々良沼の白鳥の話題が県内の新聞や情報誌の紙面を賑わしています。



最後に館林駅西口前にある「日清製粉ミュージアム」を訪れました。創業者正田貞一郎氏の事業への思いや、小麦製粉に関する技術の展示、美しい旧館や日本庭園を見学し、おみやげにお好み焼き粉をいただいて、すべての予定を終了しました。

館林にはまだまだ見どころがたくさんあります。つつじの季節、年明け頃の白鳥、そして「分ぶく茶釜の茂林寺」。他にも地元のみなさんに教えていただきたいと思います。ご参加くださった皆様ありがとうございました。

